

ふにわつ

2007.9 141

常識のうそ

鳴澤 成泰

中之島図書館では毎年、館内で所蔵している江戸時代の古文書を材料に、専門の講師に講演をお願いしている。昨年私も聞かせていただいて、長年疑問に思っていたことがやっとわかった。これは他の人には常識で、私だけが知らなかったのかもしれないことなので、赤面の至りなのだが、当時寺小屋で読み書きに使われた文字があのかずし字であるという。

当館の資料で、近世の文書、商人がつけた帳面や、当時教科書として発行されたいわゆる往来物と呼ばれる本を見ると、全てかずし字で書かれている。今年展示した俳諧一枚摺でも、俳諧が流れる様な筆致で印刷されている。

当時の俳人達は、かずし字が読めたということだろうと納得してしまう。なるほど片手に紙をもって、さらさらと筆で書くにはかずし字が書き易い。私が、当時の寺子屋では楷書で練習していたのではないかと思いついていたのはテレビの影響である。

明治の教育改革で教科書が作られ、全国一律の教育が行われた。明治維新からたかだか140年、その間に江戸時代の文書類を読める人が少なくなった。江戸時代は鎖国という状況下ではあったが、中国、朝鮮、オランダなどを通じて世界の情報が適度に入っている。

今年400年を迎える朝鮮通信使は大阪の港に上陸し江戸へ向かったが、その宿には自ら作った漢詩を携えて教えを請いに駆けつけた文化人がいたという。瓦版を買い、黄表紙などの本を貸し本屋から借りて読むことも行われた。



女手習教訓書（文政改正女子手習状）

浄瑠璃稽古本が出版され、素人浄瑠璃が盛んになったりしている。

様々な文化が栄えた江戸時代の大阪について、多くの資料が中之島図書館には所蔵されている。今年からはインターネットでまだ一部分ではあるが、原文を見ることができるようになった。

これまで研究者の手でいろんな切り口から研究し、紹介されているが、多くの人に当時のありさまを、当時の人の筆跡で読み取っていただきたいものだと思っている。

当館ではささやかながら古文書講座を開催し、古文書を読む手助けもしてきているが、さまざまな文書に触れ、これまでの常識が覆される驚きと知識を得る喜びをぜひ味わっていただきたい。

（大阪府立中之島図書館長）

▶▶▶特別展示 「俳諧一枚摺 挨拶と披露の配り物 -」 を開催しました▶▶▶

平成 19 年 6 月 11 日（月）から 30 日（土）の間、当館 3 階文芸ホールにおいて特別展示会「俳諧一枚摺 挨拶と披露の配り物 -」を開催し、当館の所蔵する資料を中心に約 65 点を展示しました。近年、俳諧研究の分野でも、重要な「俳諧文化資料」として注目されている俳諧一枚摺は、俳諧の大衆化とともに俳人間の交流、挨拶の手段として広く流布しました。今回の展示では、俳諧一枚摺の企画、注文、そして配布に至るまでの制作行程を全体の枠組みとし、そこに大衆化の諸相が垣間みえる様に工夫しました。期間中の入場者数は 1346 名で参加者からは「制作の現場から実作品に到るまで、また江戸から昭和期まで多岐に扱っており、分かりやすかった」「体系だった展示で、図版も完備し、大変勉強になりました」という感想をいただきました。

関連講演会は 7 月 7 日（土）に開催しました。参加者は 51 名でした。

大阪城南女子短期大学教授の小林^{トオル}孔氏には「俳諧一枚摺の流行」と題して、展示目録をテキストに俳諧一枚摺の作成期間、一枚あたりの値段を示され、一枚摺が大衆化の中でいかに流行していったかを、わかりやすくお話しいただきました。

また奈良大学教授の永井一彰氏は「一枚摺の板木」と題して実際の板木を手にとり、材料、用途、耐久性について興味深くお話をいただきました。実物の板木を参加者の手にとれるように回し、また「板木で摺る」という理解のために本物の和装本を「解体」するなど、「実物」を前にした講演に好評を得ました。

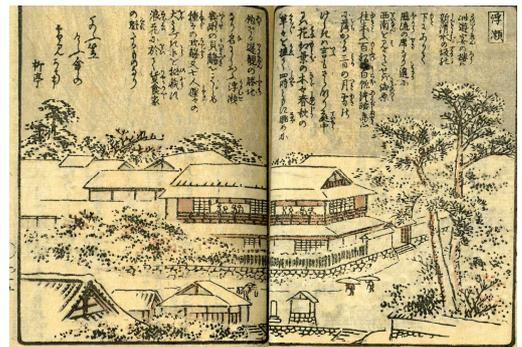
▶▶▶秋の展示会のお知らせ▶▶▶

特別展示「なにわグルメ百景」

平成 19 年 11 月 5 日（月）～ 21 日（水）予定
午前 10 時～午後 5 時（8・11・18 日は休館）

関連講演会 12 月 15 日（土）開催予定

「京の着倒れ、江戸の呑み倒れに、大坂の食い倒れ」——三都を比較する言葉は数あれど、これは、飲食に心をくたく大坂人の気質を表す言葉として、もっとも一般的に使われました。日本料理が確立した江戸時代、大坂は「天下の台所」であり、全国の富と物資が集まる一大経済都市であったことから山海の食材に恵まれ、高級料亭から町の屋台まで、幅広い階層の人がそれぞれに応じた食を楽しむ文化が発達しました。今回は近世から近代にかけての大阪の料亭・料理屋、茶店などを紹介した資料、またそこへ集った人々の諸相、菓子・麺類など様々な食道楽の風景、また大阪特産の野菜に関する資料などを展示いたします。美味なる大阪を満腹になるまでお楽しみください。



料亭浮瀬（『浪華の賑ひ』）



2005年9月より、月2回（第1・第3水曜日）の頻度でメールマガジンによる情報発信を行っています。セミナーの開催・申込案内や新着図書紹介、ビジネス支援サービス、大

阪資料・古典籍に関するトピックを掲載し、登録者数は平成19年7月に1,000名を突破いたしました。登録やバックナンバーの閲覧も当館ホームページ上から簡単にできますので是非ご活用ください。